

中部様式
(調査事業)

令和3年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

刈谷市都市交通協議会

平成23年1月13日設置

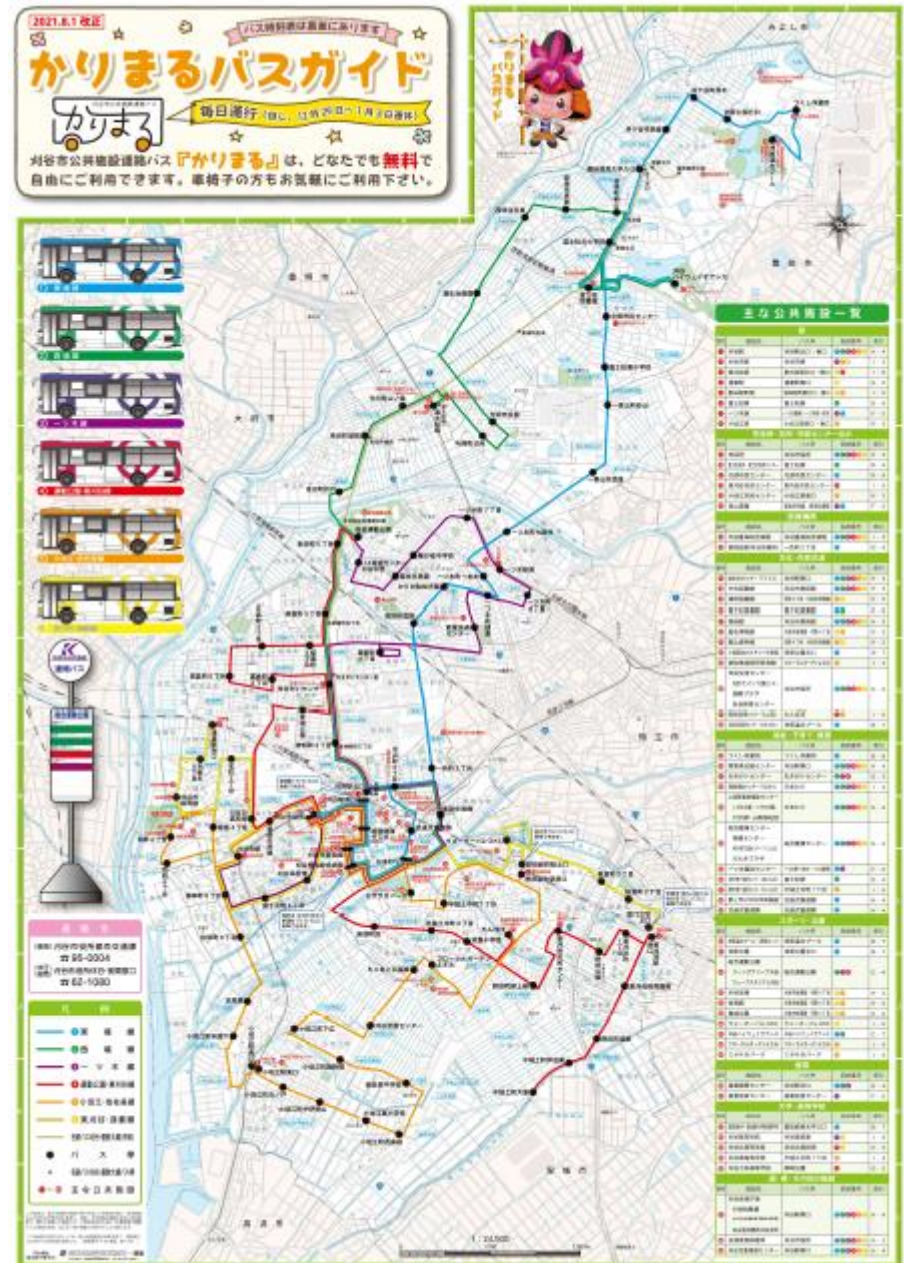
調査事業（計画策定） 令和6年3月 地域公共交通計画策定予定

【地域特性】

- 人口 152,433人 (R4.1.1時点)
2030年で減少に転じる見込み
- 面積 50.45m²
- 国道1号、23号等幹線有
- 北部を横断する伊勢湾岸自動車道に、刈谷スマートIC事業中
- 市中心部にある刈谷駅周辺に主要施設が集積 (コンパクトシティ)

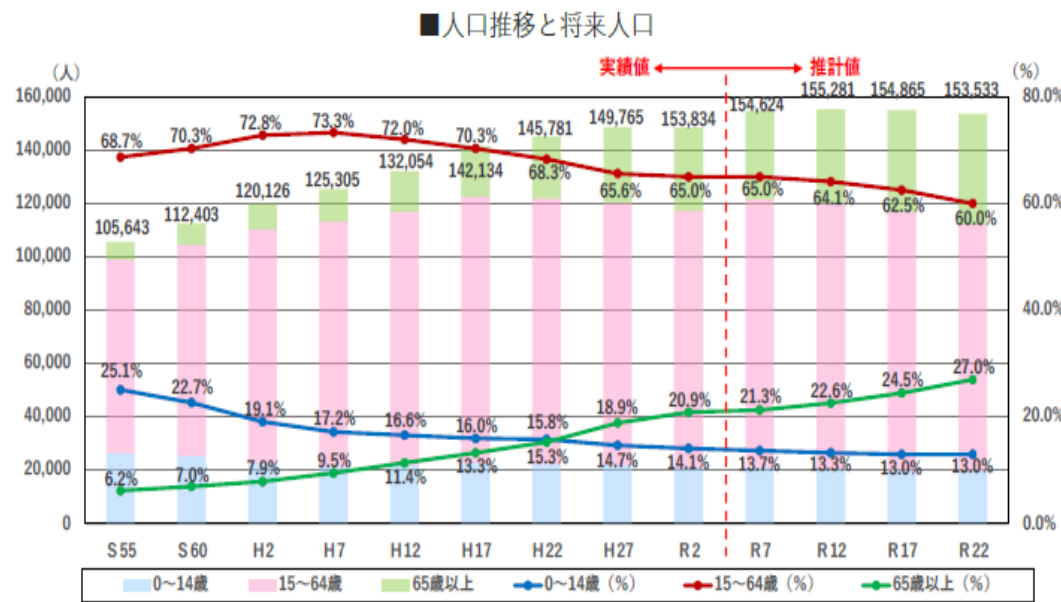
【公共交通の特性】

- 鉄道駅 8 施設 (東西軸形成)
- コミュニティバス「かりまる」 (無料)
北部3路線 南部3路線 (南北軸形成)
- 名鉄バス(株) 刈谷・愛教大線 (北部軸)
- タクシー 2 社
- 企業バス、福祉有償運送 有

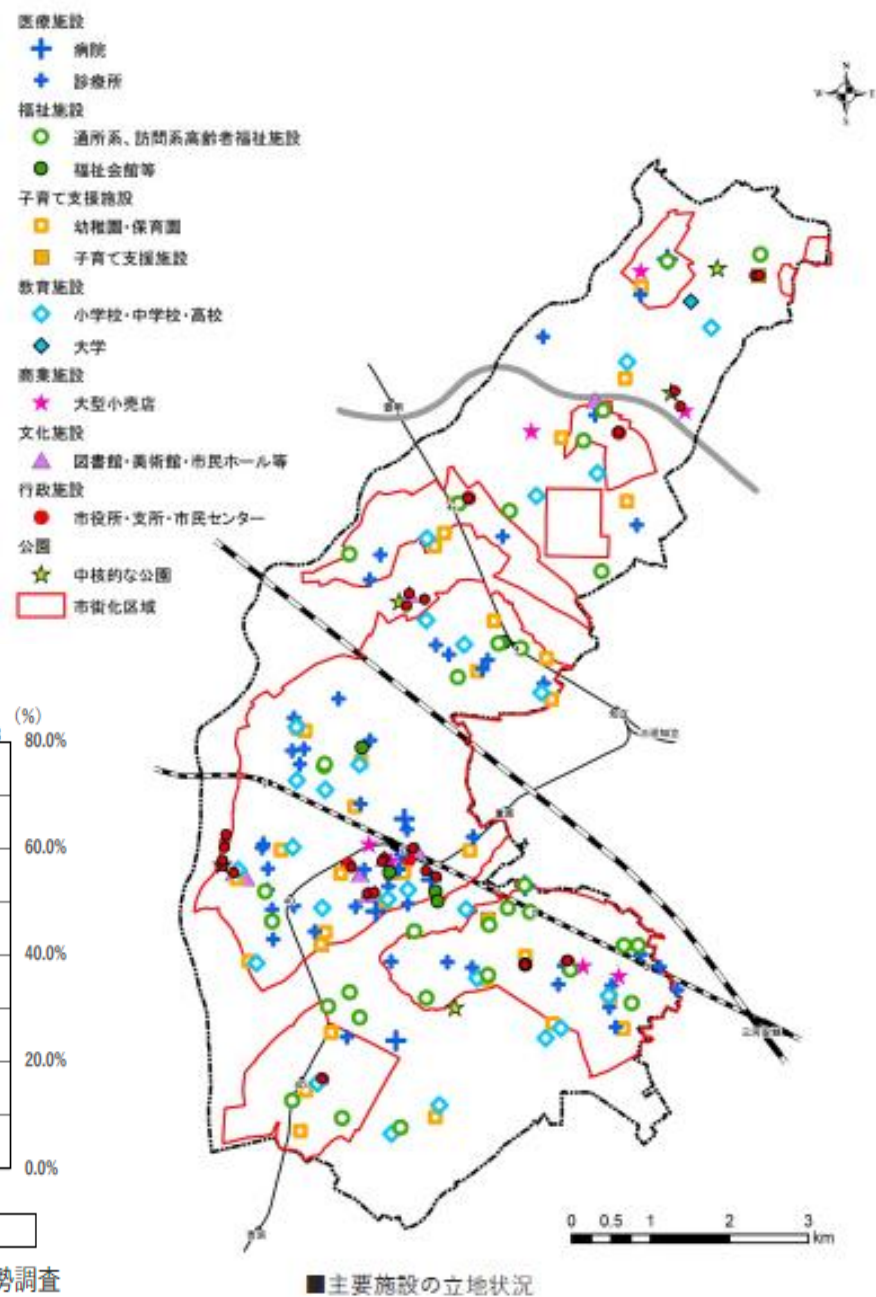


【地域特性】

- 人口は増加傾向だが、高齢化率も増加しており、2040年には27.0%と予測
- 市内外からの利用が想定される施設は市街化区域全域に立地、特に刈谷駅周辺に集積
- 診療所や幼稚園・保育園、身近な商業施設等は、市内全域に立地

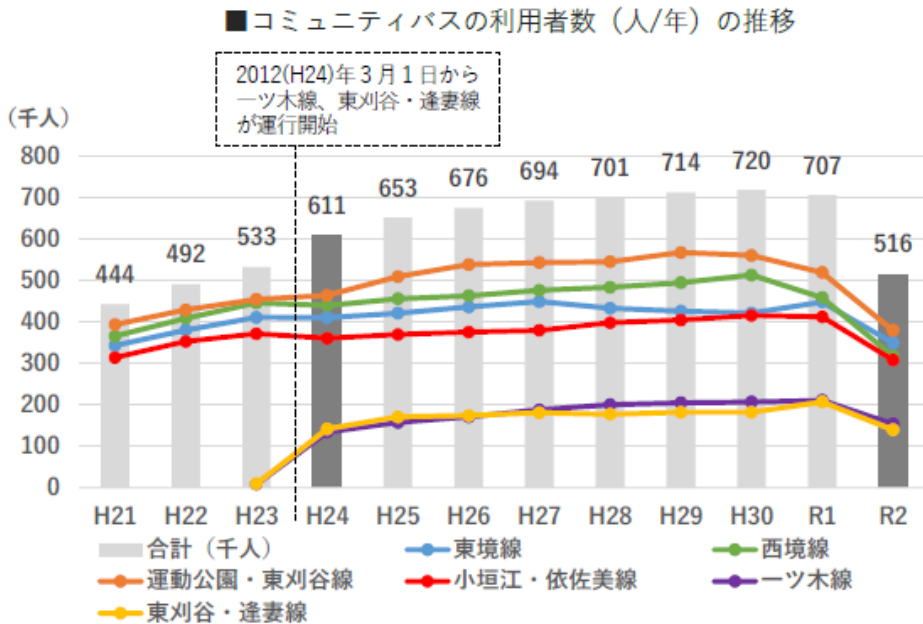


資料：国勢調査

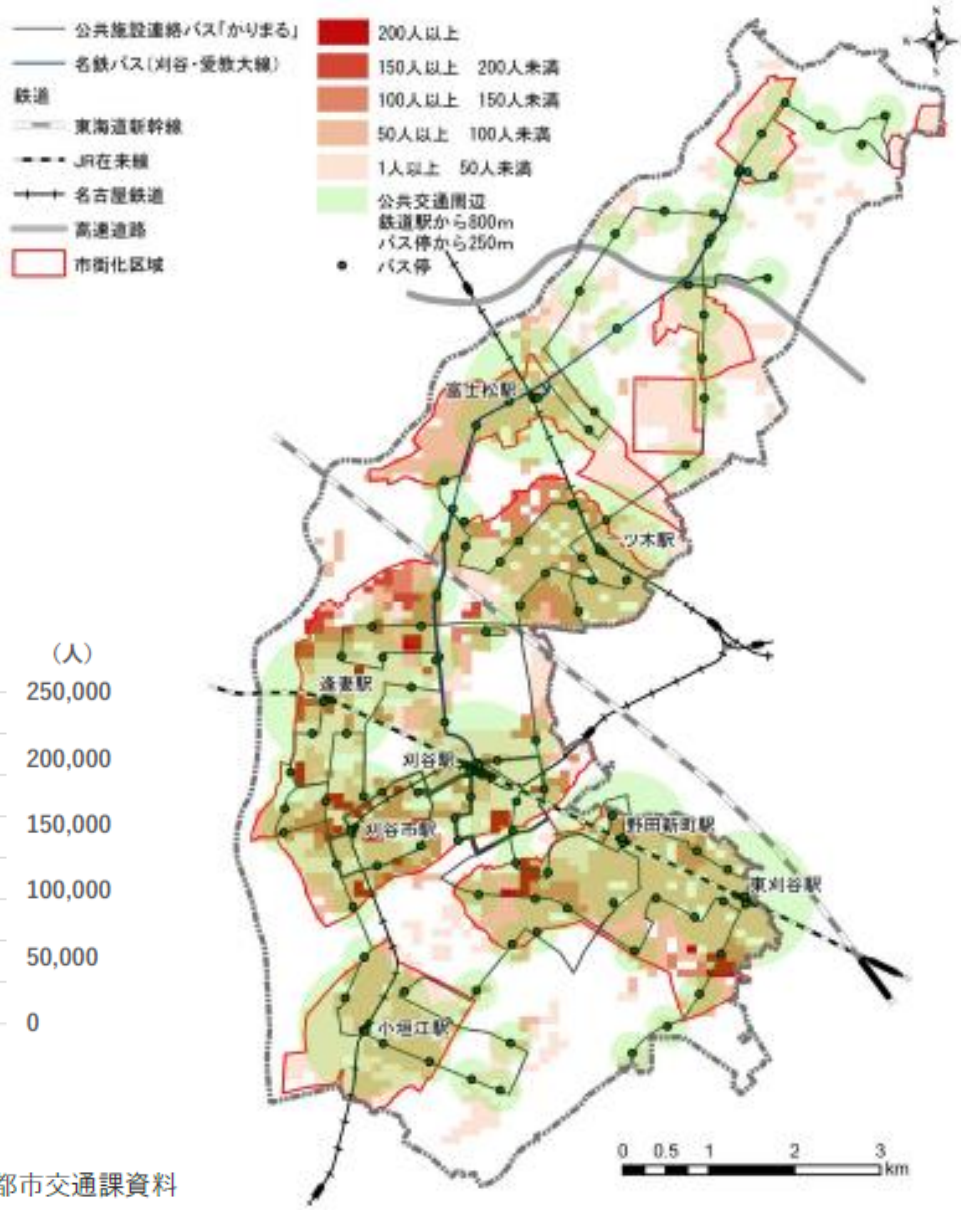


【公共交通特性】

- 「かりまる」の利用者数は運行開始以降、増加傾向にあったが、コロナ禍において利用者数が約30%減少
- 一部に公共交通の利用がカバーできていない地域が約24%存在



資料：刈谷市の統計、都市交通課資料



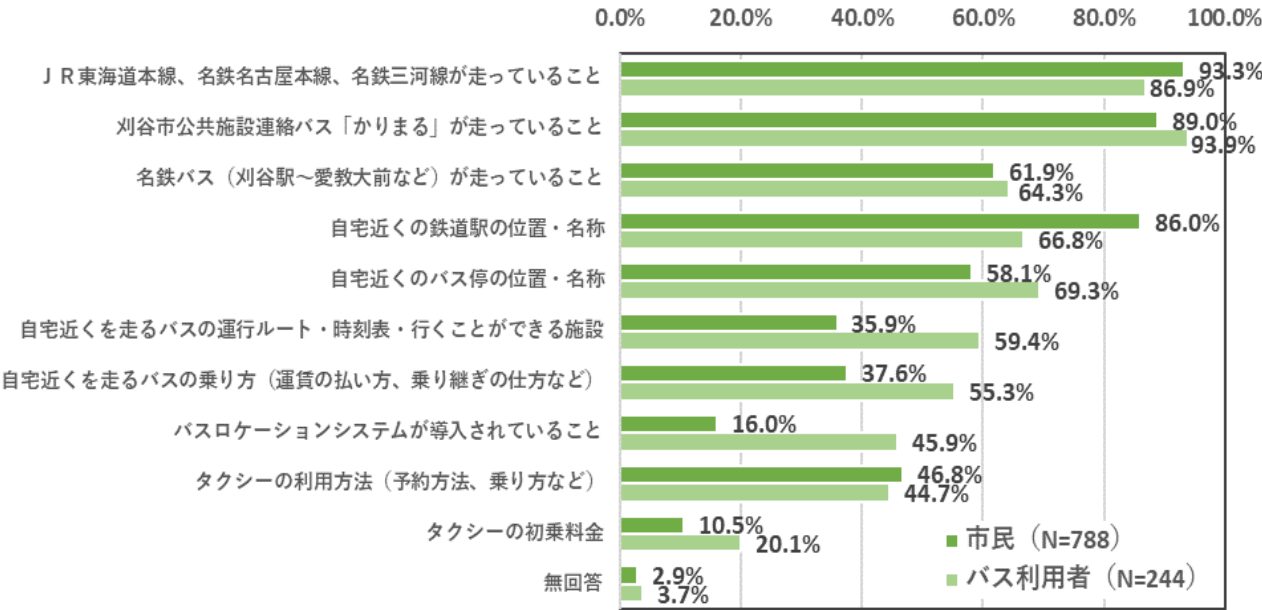
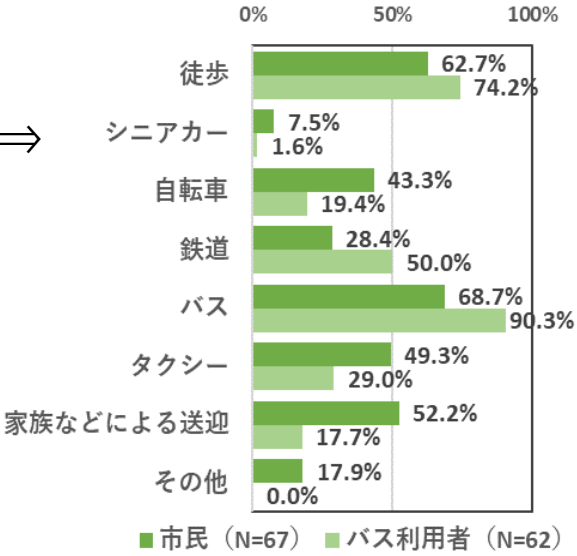
【公共交通に関するニーズ】

○アンケート調査を実施

目的	▪ 公共交通に関するニーズ把握 ▪ （仮称）刈谷市地域公共交通計画策定の基礎資料とするため
期間	▪ 令和3年12月6日（月）～15日（水）
対象	▪ 市 民：1,900人（無作為・16歳上） ▪ かりまる利用者：600人（100人×6路線）
方法	▪ 市 民：郵送 ▪ かりまる利用者：車内配布
内容	▪ 日常生活の移動実態 ▪ 公共交通への満足度 等
回収率	▪ 市 民：41.5%（788／1,900） ▪ かりまる利用者：40.5%（244／600）

【公共交通に関するニーズ】

- 免許返納後の移動手段として、バス利用のニーズが高い ⇒
- 「かりまる」等のバスが運行していることに対する認知度は高いが、乗り方や運行ルート等の認知度は40%以下
- 「バスの運行本数」や「バス停での待合環境」、「運行時間の正確さ」等の満足度が低い



市民アンケートにおける
不満度

1位	バス運行本数
2位	タクシーの料金
3位	バス停での待ち合い環境
4位	バスの運行時間の正確さ

地域特性からみる課題

【高齢化に対応した公共交通サービスの提供】

● 今後迎える超高齢者社会において、市民が安心して本市で快適に暮らし続けられるよう、市民のライフステージに応じた公共交通サービスの提供が必要です。特に、高齢者などの交通弱者に配慮し、誰もが安全かつ安心して利用できる交通環境の確保が重要です。

【本市が目指すまちづくりとの連携】

● 関連計画において、「拠点間を鉄道やバスなどの公共交通で結ぶことで、誰もが歩いて暮らせる機能集約型都市構造の構築」を位置づけていることから、本市が目指す機能集約型都市構造の実現に向けた公共交通ネットワークの形成が必要です。

公共交通特性からみる課題

【公共交通のカバー率上昇】

● 公共交通カバー率が約76%となっており、一部地域に公共交通が行き届いていないため、既存の公共交通ネットワークの見直し等により、市民がどこに住んでいても便利で快適に移動できる交通環境の確保が必要です。

公共交通のニーズからみる課題

【利用者ニーズに応じた「バス交通」の再編】

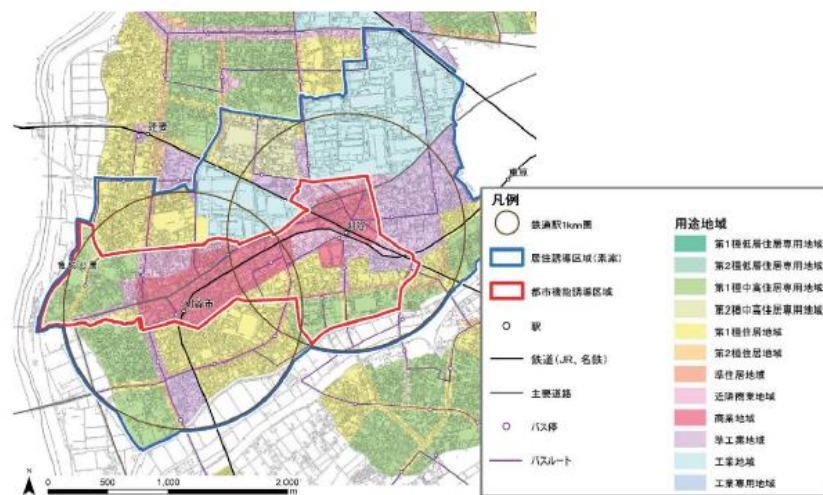
● バスの運行本数や運行時間の正確さ等の運行面に関する不満度が高い一方、運転免許返納後の交通手段としてバスを求めるニーズが高いことから、利用者ニーズに応じた運行ルート、ダイヤ再編などの見直しを行うとともに、運転免許返納後でも安心して移動できるバスサービスの提供が求められています。

【利用者の視点に立った情報発信】

● 公共交通を維持し続ける上では一定の利用者数の確保が必要であり、既存の利用者のみならず、新たな利用者の発掘が重要となることから、利用者数の確保・維持に向けて、乗り継ぎ情報やアクセスできる施設等の利用者の視点に立った情報発信が重要です。

○立地適正化計画

- 都市拠点や地域拠点到都市機能や生活機能の誘導を図り、これら拠点を公共交通で結ぶことで、「機能集約型都市構造」の構築を目指す。



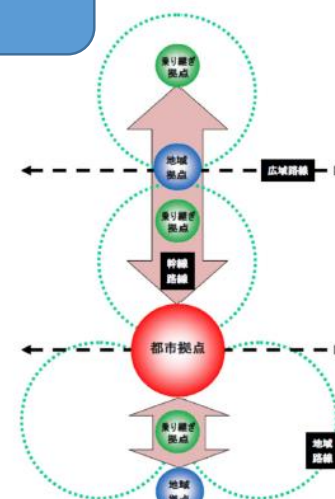
■都市機能誘導区域と居住誘導区域

資料：刈谷市立地適正化計画

コンパクトシティ+ネットワーク

○都市交通戦略

- 産業・交流・生活・環境の4つの視点から、持続可能な都市交通体系を目指し、「体系的で利便性の高い公共交通ネットワークの形成」を位置付けている。



■公共交通体系ネットワークイメージ

資料：刈谷市都市交通戦略

- 公共交通に係る様々なニーズに対応し、かつ持続可能な公共交通サービスの確保を実現するため「（仮称）刈谷市地域公共交通計画」を策定する。
- 計画策定と並行し、幹線路線と地域路線の配置やデマンド交通の導入など、多様な交通モード役割を整理及び活用し、公共交通見直しを検討する。
- ニーズや生活実態の把握として、アンケート調査（今回報告）やワークショップ等を実施し、地域住民の意見を反映させた計画を策定する。

	R3年度		R4年度			R5年度		
	2月	3月	上	中	下	上	中	下
課題整理								
基本方針・目標								
定量的目標・施策と実施主体								
計画案の作成								
パブコメ								
計画策定								

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和4年1月14日

協議会名:

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は 地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A ・ B ・ C 評価	【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】
【地域特性の整理と公共交通の現状分析】 ・人口動態や公共交通の運行状況等を整理、分析した。 【利用実態及びニーズに係る調査・分析】 ・市民1,900人(無作為・16歳上)及びコミュニティバス利用者600人(100人×6路線)にアンケート調査を実施、分析した。 ・回収率 →市民: 41.5%(788/1,900) →コミュニティバス利用者40.5%(244/600) 【地域公共交通計画(素案)の策定】 ・本市における公共交通のあり方を踏まえ、素案を作成する。	A	各種調査、分析を通じ、市民・利用者ニーズを把握することができ、公共交通の利便性向上に必要な情報収集を行うことができた。	【補助対象事業名】 ・地域公共交通調査事業(計画策定事業) 【事業内容】 ・刈谷市地域公共交通計画検討業務委託 【実施時期】 ・令和3年7月21日～令和4年3月25日 【計画策定に向けた方針】 ・公共交通に係る様々なニーズに対応し、かつ持続可能な公共交通サービスの確保を実現するため「(仮称)刈谷市地域公共交通計画」を策定する。また、幹線路線と地域路線の配置やデマンド交通の導入など、多様な交通モード役割を整理及び活用し、公共交通見直しを検討する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月14日

協議会名：	刈谷市都市交通協議会
評価対象事業名：	地域公共交通調査事業(計画策定事業)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	平成31年4月に利便性向上等を目的とした刈谷市公共施設連絡バスの路線改編を実施したが、令和元年11月に実施した利用者アンケート調査において、「運行本数が少ない」「目的地への乗車時間が長い」「自宅や目的地からバス停までが遠い」といった不満の意見もいただいております。更なる利便性の向上等が求められている。 更なる利便性向上のためには、公共施設連絡バスの路線改編、新たなデマンド交通の導入、鉄道との連携、他市町への乗り入れなど、多岐にわたる検討を行い、また、現在無料運行している公共施設連絡バスの有料化(受益者負担)も一検討事項とし、抜本的な公共交通の見直しが必要となる。 抜本的見直しを行った上で、より利便性の高く、持続可能な公共交通を構築することを目的として、上位計画及び関連計画との整合を図りながら、地域公共交通計画を策定する。